

日本の20世紀 遺産 20 選

伊賀上野城下町の文化的景

2017年12月に国際記念物会議（イコモス）の国内委員会が「日本の20世紀遺産20選」を発表し、その中で伊賀市の「伊賀上野城下町の文化的景観」が選ばれました。以下に、これらを構成する市内の15施設をご紹介します。

構成要素のご紹介

旧上野市庁舎

【指定区分】 市指定

【種別】 建造物

【所在地】 上野丸之内

【指定年月日】 平成31年3月26日

【概要】

緩やかに傾斜する斜面を巧みに利用し、周囲の景観に配慮した低層建築になっている。外観は杉板の型枠によるコンクリート打ち放しの柱と梁が特徴で、大きく張り出した軒によってピロティが形成されている。内部は開放的な吹き抜けの玄関ホール、1階南側は水平連続窓と高い天井による明るく大きな空間が設けられ、2階は議場を中心として南北両側に屋上庭園を配置し、それらの周囲を回廊がめぐっている。



（竣工当時）

【見どころ・解説】

伊賀市上野丸之内にあり、長らく市役所として親しまれてきたこの建物は、昭和39年（1964）に竣工しました。設計は20世紀の三大建築家ル・コルビジエに師事した坂倉準三によるもので、旧上野市庁舎はじめ、上野西小学校体育館、白鳳公園レストハウスなどとともに公共建築群として設計・建設されました。これらは背後の上野公園の景観とも調和するよう低層で建てられたのが特徴です。



（付近の広場・上野市駅前広場）

旧上野市庁舎は、段差のある地形を生かし、南側は2階、北側は中2階を含めた3階建てとなっています。外観はコンクリートの打ち放しの柱と梁が特徴的で、南・北側は軒が大きく張り出し、その下はピロティとなっています。

内部は、高い天井と3階へつながる特徴的な階段があり、高い天井と水平連続窓で確保された採光により、明るく広々とした南側の空間と、地形を生かしたスキップフロアの中2階があります。最上階には2つの中庭とそれを巡る回廊状の廊下、その外側に配置された執務室で構成されます。



（現在）

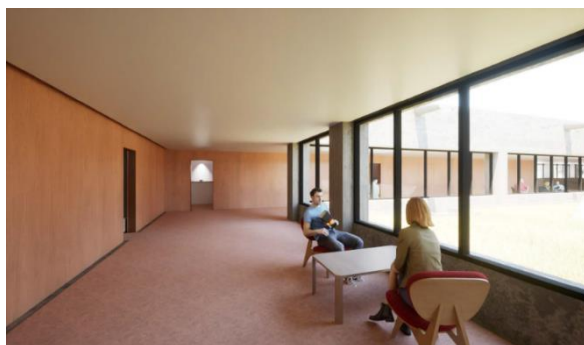
旧上野市庁舎は、旧城下町の都市景観にあわせた近代建築群の代表例として、日本の20世紀遺産20選に選ばれています。

ホテル、図書館などの複合施設としてリノベーションが進められ、施設全体の名称としては「SAKAKURA BASE」とし、令和7年7月19日にホテル「泊船（はくせん）」、カフェ「CROSSCafe」、観光案内（物販）の施設が先行オープンし、来年の令和8年4月には図書館もオープンする予定です。

このように坂倉準三氏の設計の建物を活用し、文化的価値を伝えることとともに、地域活性化を図り、市民や訪問者にとって魅力的な場所となることを目指しています。



（参考：図書館エリア イメージパース）
提供 MARU. architecture



（参考：宿泊エリア イメージパース）
提供 MARU. architecture

西小学校体育館

- 【指定区分】 未指定
- 【種別】 建造物
- 【所在地】 上野丸之内
- 【指定年月日】 —
- 【概要】

伊賀上野城のある城山の南麓に1959年から66年までに「上野市公民館」「上野市立西小学校」（体育館のみ現存）「上野市立崇広中学校」「三重県上野分庁舎」「上野市庁舎」がつぎつぎに建設された。

これらは水平なボリュームを連ね、こんもりとした城山と対比をなして、シンボリックな景観を生み出していた。現在も小学校の体育館として利用されている。

屋根のトラス構造が美しく、構造体は鉄筋コンクリート造りとなっている。



伊賀文化産業城

- 【指定区分】 市指定
- 【種別】 建造物
- 【所在地】 上野丸之内
- 【指定年月日】 昭和60年3月18日
- 【概要】

木造本瓦葺の3層の大天守と2層の小天守からなる複合式天守閣で、大天守と小天守の間には高麗門が設けられている。外観は白亜の漆喰塗の純日本建築様式で、藤堂高虎が築いた天守台に、地元選出の代議士川崎克が昭和10年（1935）に私財を投じて建設した。復興天守としては数少ない木造建築である。

上野城跡は、上野市街地の北に位置する丘陵上に、筒井定次が城郭を構えたことに始まる。当時の天守は、現在の上水道配水池がある丘陵最高所に設けられたが、慶長13年（1608）に伊賀国へ入封した藤堂高虎は、筒井時代の二之丸までを本丸に取り込み、その二之丸であった

部分を西側に拡張して高さ約30mの高石垣を築いた。さらに、その拡張部分に五層の天守の建設を進めたが、完成直前の大風雨で崩壊し、天守は昭和期に入るまで再建されることはなかった。江戸期には、筒井時代の本丸跡に城代屋敷が建てられ、近年継続して実施された発掘調査において、南側に表向きの施設、北側に奥向きの施設を配した屋敷の構造が明らかになっている。



大きさ（縦）

大天守（第1層）：桁行16.7m×梁間14.8m

小天守：桁行7.9m×梁間5.5m

（夜のライトアップ）



俳 聖 殿

【指定区分】 国指定

【種別】 建造物

【所在地】 上野丸之内

【指定年月日】 平成22年12月24日

【概要】

上野公園内にある建物です。地元出身の代議士川崎克が、芭蕉生誕300年を顕彰して昭和17年（1942）に建設した。伊東忠太による指導を受けた、木造2階建の檜皮葺、八角重層塔建式の聖堂で、屋根の形は旅笠、八角形の大庇は着物、その中間は顔、周囲の円柱は行脚する芭蕉の脚と杖を表現している。下層は平面八角円堂で、外周に吹放しの孫庇を設けている。床は石敷で、身舎には八角厨子を据え、陶製芭蕉像を安置している。



上層は円形平面だが小屋組が露出し、下層からは梯子で出入りが可能である。柱や繫梁、二軒の扇垂木、組物の肘木など主要な部材に丸太を使用し、屋根は勾配や軒出を順次変化させるなど、堂宮建築を基礎にしながら数奇屋風の意匠を採り入れている。



芭蕉際の
様子



4



旧三重県第三中学校校舎

- 【指定区分】 県指定
【種別】 建造物
【所在地】 上野丸之内
【指定年月日】 平成元年3月27日
【概要】

上野高等学校に残る木造平屋建の擬洋風校舎で、明治33年（1900）に三重県第三中学校校舎として建てられた。中央の玄関から東西に細長い校舎が設けられ、東西両端で北に折れ、平面形ではコの字型を呈している。南に張り出した玄関ポーチは凝った造りで、屋根は入母屋造の破風を見せ、左右に3本のタスカン様式の円柱を配している。柱間にはアーチ形の細かい装飾が施され、軽快で抑制の効いた華やかさをもつ建造物である。



（玄関ポーチ）

伊賀市で生まれた俳聖松尾芭蕉は、元禄7（1694）年10月12日に51歳で亡くなりました。そして、昭和22（1947）年から、その命日10月12日には「芭蕉祭」として式典を開催し、令和6年には78回を数えることとなりました。

写真は例年10月に行われる俳正殿の前での記念式典の様子です。全国俳句大会の授賞式なども開かれます。

白鳳公園レストハウス

- 【指定区分】 未指定
【種別】 建造物
【所在地】 上野丸之内
【指定年月日】 —
【概要】

上野公園内にある建造物。旧上野市庁舎、西小学校体育館とともに、坂倉建築研究所の設計により建設。

1本の柱で支える構造は、特徴的な外観を生み出しています。屋根に降った雨水は、中央に集められ、柱の内部を通り下に排水させることで、軽快な外観を生み出しています。

北側にある長方形の建物、東側にあるトイレ棟も同じく坂倉建築研究所の設計で作られています。公園内の樹木の中にうまく溶け込むような意匠をみることができます。



(全景)

旧 崇 広 堂

- 【指定区分】 国指定
 【種別】 史跡
 【所在地】 上野丸之内
 【指定年月日】 昭和5年11月19日
 【概要】

藤堂藩の藩校有造館の支校として、文政4年（1821）に10代藩主藤堂高兌によって建てられた。崇広堂の名前は、中国の書物『書経』からとったもので、講堂（写真）に掲げる扁額の文字は米沢藩主上杉鷹山（治憲）の筆による。東側は講堂を中心とした文場、西側が武技場や馬場を有する武場として用いられ、藩校に通有の孔子廟がなかったことが特徴である。



嘉永7年（1854）の安政伊賀地震で大きな被害を受けたが、文場を中心にいち早く復興し、講堂・講師控室・有恒寮・門・堀などは今も当時の様子を伝えている。近代になると武場は学校用地として使用され、現在は崇広中学校の敷地となっている。また、文場は図書館として用いられた後に保存整備事業が実施され、現在は一般に公開されている。



大きさ

講堂：桁行14.1m×梁間14.1m／玄関：桁行13.8m×梁間3.9m／台所：桁行7.8m×梁間8.0m／小玄関：桁行2.9m×梁間2.0m／東控所：桁行4.7m×梁間4.1m／北控所：桁行20.0m×梁間4.9m／書物蔵：桁行5.9m×梁間3.9m／有恒寮：桁行9.8m×梁間4.9m／御成門：桁行2.4m／表門：桁行2.5m×梁間5.9m

伊賀鉄道上野市駅舎

- 【種別】 建造物
 【所在地】 上野丸之内
 【登録年月日】 令和3年2月4日
 【概要】

上野市駅舎（写真）は、大正年間に伊賀軌道の「上野町駅」として竣工した木造3階建、鋼板葺き腰折屋根の建物である。1階はコンコースと駅務室、2階は駅員の仮眠室等として使われ、3階には社長室があった。昭和16年（1941）の市制施行にともない「上野市駅」に改称された。



大きさ（縦）

上野市駅舎：建築面積139㎡



（伊賀鉄道 車両）©松本零士/零時社

※「銀河鉄道999」などの作品で知られる松本零士氏がデザインした忍者列車

西 町 集 議 所

【指定区分】 市指定

【種別】 建造物

【所在地】 上野西町

【指定年月日】 平成11年3月26日

【概要】

現在は上野西町の集会所として用いられているが、明治期には米問屋を営む商家であった。主屋（写真）は切妻造、平入の建物である。間取りは座敷廻りを中心に大きく改変されているが、表側の居室列や土間沿いの居室廻りの差鴨居・大引天井などには当初材が確認できる。主屋の裏手には、井戸屋形や風呂・雪隠のための付属屋、敷地の最奥に間口4間半、奥行3間の大型の米蔵が残り、当時の上層商家の家屋配置を知ることができる。

大きさ（縦）

桁行10.0m×梁間12.0m



上野文化センター

【指定区分】 国登録

【種別】 建造物

【所在地】 上野中町

【登録年月日】 平成15年12月1日

【概要】

大正11年（1922）に建てられた木造3階建のモダンな建物である。当初は倉庫として使用されていたが、昭和40年（1965）から「上野文化センター」の名称で趣味・教養施設となり、現在は店舗として利用されている。

外観は1階を花崗岩の石貼り、2階以上はモルタル塗りで、屋根は寄棟造の鉄板葺である。戦前の上野市街地の面影を伝える貴重な建築物である。



赤井家住宅

- 【指定区分】 国登録
 【種別】 建造物
 【所在地】 上野忍町
 【登録年月日】 平成22年9月10日
 【概要】

藤堂藩の藩士であった赤井家が拝領した屋敷である。中之立町通りに面する東側を正面として、江戸末期の建てられたとみられる木造平屋建、入母屋造で棧瓦葺の長屋門（写真）と土蔵が並ぶ。長屋門の正面には主屋があり、主屋の東南、土蔵との間に茶室がある。建築年代の最も古い長屋門は、北寄りに門口を構え、正面は簷子下見で上部を漆喰塗りとし、南端に出格子窓を付けた重厚な外観を有する。数少ない武家屋敷の遺構として貴重である。



大きさ（縦）
 主屋：建築面積160㎡
 茶室：建築面積12㎡
 土蔵：建築面積22㎡
 長屋門：建築面積68㎡
 土堀：総延長55m

入交家住宅

- 【指定区分】 県指定
 【種別】 建造物
 【所在地】 上野相生町
 【指定年月日】 平成10年3月17日
 【概要】

藤堂藩の藩士であった入交家が拝領した屋敷である。主屋は北を正面とした入母屋造の茅葺で、東側を炊事のための土間、西側の大半と南側の筒屋を居室としている。長屋門は入母屋造の棧瓦葺、戸口の西脇に3畳、東脇に8畳と4畳半の小部屋がある。安政5年（1858）の建築とされる表屋は棧瓦葺、東面に鉄板葺の庇が付く切妻造になっている。寛政9年（1797）に設けられた土蔵を含め、江戸期の武家屋敷を構成する建物がまとまって残り、内外とも当時のたたずまいをよく伝えている。



大きさ（縦） 主屋：桁行17.7m×梁間8.8m
 長屋門：桁行12.7m×梁間4.0m
 表屋：桁行7.3m×梁間6.0m
 土蔵：桁行5.8m×梁間3.9m

一乃湯本館・門

- 【指定区分】 国登録
 【種別】 建造物
 【所在地】 上野西日南町

【登録年月日】 平成25年6月21日

【概要】

石柱の門は、大正15年（昭和元年・1926）に「草津湯」として開業した当時のもので、昭和25年に「一乃湯」として開業した際にネオン管が設置された。唐破風の玄関は、柱上部に斗が組まれ、墓股で虹梁を受けている。天井は格天井になっており、総じて社寺風の造りである。脱衣場は、流木を加工した欄間や折上格天井など和風を凝らし、浴場入口が花模様のテラコッタやアーチ状に色ガラスを嵌めて洋風を醸しているのとは対照的である。



（正面入り口）

大きさ（縦）

本館：建築面積129㎡

門：間口2.1m



（内部の浴場・一乃湯HPより）



（脱衣場）

蓑 虫 庵

【指定区分】 県指定

【種別】 史跡及名勝

【所在地】 上野西日南町／上野愛宕町

【指定年月日】 昭和13年1月19日

【概要】

東麓庵・西麓庵・無名庵・瓢竹庵とともに芭蕉五庵に数えられる草庵で、唯一現存している。蕉門の高弟服部土芳により創建され、芭蕉の句「蓑虫の音を聞きに來よ草の庵」にちなんで「蓑虫庵」と呼ばれた。現存の建物は、木造茅葺、庇瓦葺の平屋建で、元は東の表門から出入りしていたが、現在は南側に出入口が設けられている。

大きさ（縦） 指定面積1,713㎡





旅館薫楽荘本館・蔵・門及び塀

- 【指定区分】 国登録
- 【種別】 建造物
- 【所在地】 上野桑町
- 【登録年月日】 平成23年10月28日
- 【概要】

明治中期に開業した芳真楼が始まりで、昭和33年（1958）に旅館となった。背の高い黒壁塀と門が、旅館の歴史を感じさせる。本館は間口12.8m、奥行14.8m、2階建の切妻屋根平入建物である。前蔵は間口4.9m、奥行3.9mほど、切妻屋根平入2階建である。瓦には本館同様に家紋「横木瓜紋」が使われている。

大きさ（縦）
 本館：建築面積189㎡
 蔵：建築面積19㎡
 門及び塀：延長12m

【終わりに】

伊賀上野城下町の文化的景観が「日本の20世紀遺産20選」に選ばれたことは、私たちにとって大きな誇りです。これまで紹介してきた15の構成要素が示すように、この地域の景観は単なる歴史的遺産ではなく、現代の私たちの生活とも深く結びついています。景観を守ることは、過去の遺産を保存するだけでなく、私たちの生活の質を向上させ、地域の活力を高めることに繋がります。

「ヘリテージマネジメント」と呼ばれる言葉を最近耳にする機会が多くなりました。

文化遺産のマネジメントには地域の課題解決に貢献し、地域の独自性を再確認し、歴史遺産を保存・継承することが不可欠です。これらを持続可能にするためには、地域の人々と連携し、行政や民間が一体となって文化遺産を守り育てる体制を改めて構築することが求められます。

また、景観保全の活動を通じて地域の景観の価値を再認識し、新たな資源の発掘や活用を進めることも重要です。

その意識を高めるためには、街歩きや景観学習、シンポジウムなどの参加・体験機会を増やし、景観に対する理解を深める必要があります。

私たち一人ひとりが景観の重要性を理解し、地域の文化遺産を守るための具体的な行動をとることが、次世代に美しい景観を継承するための第一歩です。これからも伊賀市の城下町の景観を守り育てるために、皆様のご協力とご理解をお願い申し上げます。共に手を取り合い、伊賀市の豊かな文化遺産を次世代に引き継いでいきましょう。

制作：伊賀市（建設部 都市計画課）

お問合せ先： TEL 0595-22-9731

Email:tokei@city.iga.lg.jp

制作時期：令和7年9月1日

①旧上野市庁舎(市指定)



②西小学校体育館



③伊賀文化産業城(市指定)



④俳聖殿(国指定)



⑤白鳳公園レストハウス



⑥旧三重県第三中学校校舎
(県指定)



⑦旧崇広堂(国史跡)



⑧伊賀鉄道上野市駅(国登録)



⑨西町集議所(市指定)



⑩上野文化センター(国登録)



⑪赤井家住宅(国登録)



伊賀市 20 世紀遺産のまちづくり関連事業重ね図

